

おらたのまかん新聞

岐阜県の風を創る

県議会議員に初当選してからもうすぐ8年になりますが、今年度は総務委員会委員長という重責を務めさせていただいております。

定例会の一般質問に年間3度は登壇すると決めたことを貫き、議員になってから既に24回登壇して様々なご提案やご意見を岐阜県政に発信してまいりました。

岐阜県は「清流の国づくり」や「2020プロジェクト」を掲げて、迫りくる少子高齢化や人口減少に負けない施策を推進しています。

今後とも岐阜県そして各務原市の発展に向けて邁進する所存でございますので、変わらぬご支援とご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



清流の国ぎふ憲章

清流の国ぎふ憲章

～豊かな森と清き水世界に誇れる我が清流の国～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶴飼などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知

清流がもたらした
自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、
新たな創造と発信に努めます

伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議



ガンバレ！！FC岐阜！！



3月の定例会で岐阜の地酒の質問をしました。

平成26年の岐阜県政まとめ

「清流の国ぎふ」ブランドの確立と発信（攻めの県政）

1 2020年に向けた魅力ある地域づくり

今年「清流の国ぎふ憲章」の策定や、「清流の国」の商標登録を通して「清流の国ぎふ」ブランドが県内外に徐々に浸透した年となりました。清流に育まれた「本美濃紙」のユネスコ無形文化遺産への登録や「清流長良川の鮎」の世界農業遺産候補地への選出など、「清流の国ぎふ」が世界から注目される動きも相次ぎました。

さらに来年秋には、「清流の国ぎふ」を全国にPRする絶好の機会である「第39回全国育樹祭」の開催も控えており、準備を本格化するとともに開催機運の醸成を図りました。また、東海環状自動車道の西回り区間やリニア中央新幹線などのインフラ整備、主要観光地の魅力向上に向けた取組みも着実に進め、地域の魅力を高めました。

2 スポーツを通じた地域づくり

スポーツを通じて交流人口の増加と地域の活性化を図るため、スポーツコミッションを立ち上げ、地域が一丸となって競技会や合宿の誘致に取り組みました。特に、国内随一の環境を誇る「飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア」では、高橋尚子氏らを招いた試走会や国内外からの視察の受け入れを積極的に行い、海外ナショナルチームの合宿利用も期待されます。

また、次代を担う選手の強化にも取り組み、全国大会で素晴らしい成績を収め始めています。

さらに、子どもから大人まであらゆる人がスポーツに親しみ、参加できるように、ねんりんピックの誘致や全国レクリエーション大会の開催準備、ラモス氏によるサッカー教室などを実施しました。

3 「観光・食・モノ」の魅力発信

人口減少や新興国の台頭による市場の縮小が進む中、海外市場を開拓していくことは極めて重要です。このため、平成21年度から始めた「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」をさらに加速させ、従来のアジア諸国に加えて新たに流行の発信地であるフランスをターゲットにプロモーションを展開しました。

さらに、県産品の情報発信・販売拠点をJR岐阜駅近隣及び名古屋市に開設するとともに、海外主要10都市でのアンテナショップの構築をめざし、候補店におけるテストマーケティングや商談、県への招へいを積極的に行いました。

4 新たな産業の育成・支援

経済のグローバル化が急速に進む今日、県経済を将来にわたってけん引する成長産業分野の育成に重点的に取り組みました。航空宇宙産業分野では、国際戦略特区の区域拡大や、今後の生産拡大に対応できる人材を育成することで、国際競争力の強化を図りました。次世代エネルギー分野では、農業と融合したメガソーラーや、清流を利用した小水力発電所、木質バイオマス発電所の整備を進めました。

また、I AM A Sをソフトピアジャパンエリアへ移転し、産学官連携による新商品・新サービスの開発を進める体制を強化しました。

5 力強い農林業への転換

農林業の新たな成長をめざし、将来を見据えた担い手育成と販路拡大等に取り組みました。

農業分野では、担い手育成を本格的にスタートするとともに、主要農畜産物のブランド力を高めるため、新たな研究開発に着手しました。

林業分野では、直材（いわゆるA材）を対象とする大型製材工場の建設に着手し、稼働中の合板工場と12月に完成した木質バイオマス発電プラントと合わせて、県産材を余すことなく活用する体制の整備を進めました。さらに、林業関係者の技術力向上を図る産学官連携体制も新たに構築しました。

1月18日 ふれあいバスを考える会

産業文化センターで行われた「各務原市ふれあいバスを考える会」が行われ、今回が11回目ということでしたが今までで参加者が一番多かったようです。自治会長や市議も参加されていましたが日頃「ふれあいバス」を利用している方が多く、活発な意見や提案がされたことに関心の高さを感じました。高齢化に伴い公共交通機関の利便性の向上は行政に求められている大きな課題であり、各務原市らしい「ふれあいバス路線」にして欲しいと思います。私は議員になる前から各務原市には16の鉄道の駅があり、これを活かしたバス路線による効率的な公共交通の施策が必要と訴えてきたので、今回の考える会の成果に大きな期待をしています。

4月24日 教育保育を考える会



午前中に県庁で障がい福祉課と喉頭がんで声帯を失って発声練習をしている「睦声会」の役員さんと打ち合わせをしたあと、県政自民クラブのクラブ総会に出席しました。午後からは「教育保育を考える会」の幹事会が行われ、当初1時間の予定でしたが活発な議論が行われ30分近く延長しました。組織が新しくなった子ども・女性局子育て支援課からの説明を受けましたが、市町村が実施主体になっていくことから地域格差を懸念する意見を述べさせていただきました。子育てがしやすく地域のニーズに合った仕組みづくりが行われるように、今後も事業者と行政の連携が取れるように働きかけたいと思います。

2月14日 「清流の国ぎふ憲章」



先日退院した母が要支援ということで介護認定を受けたので、社会福祉協議会のケアマネージャーの方から介護保険のご説明を受けました。自宅の廊下や玄関に手すりをつける必要もあり、プロとしてのアドバイスや手続きについて丁寧に教えていただけ助かりました。かなり雪が降って

いましたが午後から打ち合わせなどがあり県庁に行った際に、「清流の国ぎふ憲章」がロビーに掲げられているのを見つけてフェイスブックの記事にしました。清流の国のキャラクターである「ミナモ」がちょうどロビーにいたので憲章の前で記念撮影、いい写真と記事になりました。

5月31日 小学生スポーツ

中日ドラゴンズの主催で各務原市出身の前原選手による野球教室が各務原市民球場で開催されて開会式に役員の一員として参加させていただきました。幼稚園児から小学生高学年までの子供たちが、大きな声を出しながら楽しんで



ように野球をしている姿がとても印象的でした。午後からは各務原市総合体育館で開催された市民体育大会バドミントンの小学生の部の試合を観戦して閉会式で協会長として賞状を授与しました。レベルの高い決勝戦を観ながら先日「トマス杯」(男子国別対抗戦)で日本が世界一になったことを思い出し、こうしたジュニアからの積み重ねが今の日本のバドミントンのレベル向上につながっていると実感しました。

3月22日 各務原市スポーツレクリエーション協会 設立総会



各務原市総合体育館で「各務原市スポーツレクリエーション協会」の設立総会が開かれ、顧問を務めさせていただくことになりました。「岐阜県清流の国スポーツ推進条例」

策定の際に、レクリエーションの文言を盛り込んだ経緯もあり、地元で協会ができることは本当に嬉しく思います。幼児期の運動は基礎体力やリズム感の向上、シニアの方にとっては健康増進と未病予防、若者男女が笑顔で体を動かすムーブメントがもっと起きて欲しいです。総会終了後の交流会で軽快な音楽にあわせて「3B体操」を体験しましたが、8拍子のテンポが速くて結構難しかったです・・・

6月13日 総務委員会 県内視察

総務委員会の東濃方面視察2日目で、土岐市の(株)アマダマシンツールの工場と中津川市の加子母清流発電所を訪問しました。アマダマシンツールでは最新の技術と設備に感動し、工場見学しながらたくさんの質問をさせて頂き大変に勉強になりました。



「加子母清流発電所」は農業用水を活用した小水力発電所であり今後岐阜県で積極的に取り組まれることが予想されますが運用の課題もあるようでした。加子母の発電所から県庁まで約2時間かかり、岐阜県の広さを実感するとともに高速道路網の重要性を感じました。

7月29日 県人口問題研究会

今朝の岐阜新聞の記事で昨日「岐阜県人口問題研究会」の初会合が学識経験者や民間シンクタンク、自治体や県職員ら12人の構成で行われたことが報じられました。6月議会において知事に対して人口減少問題と県としての取り組みについて質問したときに、この研究会についてお答えをいただきました。人口減少に対して少子化対策や子育て支援については国の制度が重要ですが、若者の県外流出防止や県内流入促進については自治体の独自施策で大きく違いが現れます。「地方の時代と言うのは、地方の競争の時代である」というのが私の信念ですので、この問題には引き続き積極的に取り組みたいと思います。



10月23日 静岡から山梨へ

総務委員会の県外視察2日目、「静岡県地震防災センター」を訪問して静岡県の危機管理体制についてお伺いしました。そのあとバスで移動して、「陸上自衛隊北富士駐屯地」を訪問して災害派遣についての説明を受けました。昨年の山梨県の大雪災害に対する説明は経験談も含め大変に参考になり、岐阜県でも想定しておくべき事項がありました。岐阜基地以外の自衛隊基地は初めての訪問でしたが、災害派遣をはじめとする自衛官の活動に敬意を表したいと感じました。



8月4日 家庭教育支援条例の勉強会

午前中は岐阜土木事務所を訪れて、道路補修などの要望をさせていただき、早期の改修と各務原市との調整をお願いしました。午後からは第2回の「家庭教育支援条例」の勉強会に参加しました。昭和40年代からの「家庭の日」の取り組みや1家庭1ボランティア活動などの説明を受けながら、家庭教育の取り組みに対する多様な施策を勉強出来ました。条例の取りまとめまでもう少し論点整理が必要ですが、学校教育や社会教育と連携しながら家庭教育がより一層充実される条例を目指します。

11月11日 第14回都道府県議会議員研究交流大会



「第14回都道府県議会議員研究交流大会」に参加して、第2分科会のパネリストを務めさせていただきました。1時間30分の基調講演のあと、5つの分科会に分かれてそれぞれのテーマをパネルディスカッション形式で開催されました。私たちの第2分科会のテーマは「議会の政策立案機能の強化」についてということで、岐阜県の議員提案条例検討会についてプレゼンをさせていただきました。約15分のプレゼンのあと、質疑もたくさん出ましたが何事もなく終えることができてホッとしています。

9月18日 県議会 定例会開会



県議会の定例会が開会して、予算関係3件条例関係19件その他案件6件と25年度決算認定を求める案件3件が上程されて知事から「提案説明」が行われました。本会議終了後に「看護対策議員連盟の勉強会」が開催され、事務局長として司会を務めさせていただきました。看護連盟と看護協会の会長から講義を受けた後、質疑応答が行われて多くの議員から活発な質疑が行われ関心の高さを感じました。昼食をはさんでクラブ控室に岐阜県のキャラクター「ミナモ」がきて、ゆるきゃらランキングの投票促進のためにPR活動が行われました。

12月5日 議員定数

今回の衆議院の解散については消費税引き上げ時期を先に延ばすことについて問うためという安倍総理の意向であり、その一方で議員定数削減についての取り組み不足の批判をよく聞きます。「岐阜県議会の議員定数」は法定議員数よりかなり削減して議会改革が進められていますが具体的な数字を調べてみました。人口200万人前後の同一規模の宮城県59人、長野県58人、福島県58人となっており、岐阜県の46人と比べると10人以上違うことがわかります。保守王国と言われる岐阜県ですが、県議会としては定数の削減はかなり先駆けて取り組まれていますし、「議員提案の条例」についての取り組みもかなりしっかり行われています。

支えあい、安心できる社会づくり

1 少子高齢化を見据えたまちづくり

少子高齢化に歯止めがかからない中、結婚から子育てに至るライフステージに応じた切れ目ない少子化対策や、高齢者の増加に対応し、地域医療・福祉の充実に取り組みました。

少子化対策については、様々な取組みを一元的に進めるため、県庁内の体制を整備し、市町村や民間団体との連携を強化しました。地域医療・福祉に関しては、南飛騨地域の中核病院である下呂温泉病院を移転新築するとともに、医療従事者の確保や、高齢社会の中でニーズが高まる在宅医療体制の整備を進めました。

2 安心して暮らせるまちづくり

誰もが安心して暮らせるよう、障がい児者への支援と住民同士が互いに支え合う地域づくりに取り組みました。障がい児者への支援については、「小児在宅医療プロジェクト」を立ち上げ、在宅の重症心身障がい児へのサービス充実を図るとともに、障がい児者医療に携わる医療従事者の育成に取り組みました。さらに、各障がい者支援機関が連携することでより手厚い支援を行うため、岐阜市鷺山地区の整備を進めました。また、地域の絆づくりについては、いじめへの対応や児童養護施設等入所者を社会全体で応援する取組みなどを実施しました。

3 将来を担う人づくり

経済のグローバル化と生産年齢人口の減少が同時に進展する中、国際的に活躍できる人材の育成と、誰もが社会の担い手として活躍できる環境づくりが求められています。このため、郷土愛にあふれたグローバル人材の育成に向けた取組みと、特別支援教育の充実、女性や高齢者が活躍できる場の拡大を図りました。また、休止していた未来会館を、子ども、若者、障がい者などあらゆる人の交流と文化芸術活動の拠点として再開することとし、新名称を決定しました。

4 清流環境の保全

本県が誇る清流やその源である豊かな森林を守るため、県民やNPO、民間企業と連携して環境保全に努めました。新たな里山林保全をめざした「環境保全モデル林」の第1号に選定された美濃市古城山では、整備が完了し、森づくり団体や市民による環境教育や保全活動がスタートしました。また、3年目を迎えた「清流の国ぎふ森林・環境基金事業」は、地域で高まる新たなニーズに応じて、森の通信簿事業など地域住民自らが地元の水源林を守る取組みを開始しました。

突発的危機事案への対応（守りの県政）

1 防災・危機管理体制の強化

自然災害、原子力災害、社会インフラの老朽化など様々な災害に備え、県民の安全・安心を確保するために、防災体制の整備と関係機関との連携を図りました。まず、突発的な災害が起きた際に迅速・適確な対応ができるよう、広域防災拠点や災害時の医療拠点の強化を行うとともに、様々な想定をした防災訓練を実施したほか、建設業関連や福祉団体との連携も強化しました。災害時の早期復旧の要となる緊急輸送道路ネットワークの整備計画を策定し、拡幅や耐震化の工事に着手しました。社会インフラの老朽化については、昭和30年代の高度経済成長期以降に建設された大量の橋やトンネルなどの急速な高齢化に対し、計画的な維持管理を行いました。

2 自然災害・山岳遭難への対応

9月27日に発生した御嶽山の噴火は、死者57名という戦後最悪の火山災害をもたらしました。また、8月16日からの豪雨では、床上・床下浸水などの家屋被害64棟、2橋の流出など、甚大な被害が発生しました。こうした災害に対し、いち早く庁内の体制を整備し、市町村などと連携し、早期復旧や風評被害対策に取り組みました。

3 危機事案への対応

今年は、危険ドラッグや感染症、有害鳥獣による被害など身の回りに迫る危険が多発しました。長年の懸案だった亜炭鉱廃坑跡の予防対策に着手するとともに、危険ドラッグについては監視の強化や条例の制定を図りました。また、感染症やクマの出没などに対しては、徹底した注意喚起や市町村等関係機関との連携体制の強化を図りました。

平成26年3月6日 第1回定例議会にて

1. 成長戦略における農工商連携の取組みについて

- | | | | |
|---|----------|---------------------------------|----------|
| (1) 農業ビジネス創出の可能性及び課題について | 知事 | (6) 日本酒の国内観光資源としての活用について | 観光交流推進局長 |
| (2) 農産物等の今後の輸出戦略について | 知事 | (7) 酒米安定供給のための、産地資金の活用について | 農政部長 |
| (3) 県内酒造メーカーの海外進出や販路拡大に向けた支援について | 商工労働部長 | (8) 酒造好適米の品種改良及び安定供給に向けた取組みについて | 農政部長 |
| (4) 県内酒造メーカーの国内競争力向上とブランド確立等に向けた取組みについて | 商工労働部長 | 2. グローバル人材の育成に向けた取組みについて | 教育長 |
| (5) 日本酒の外国人観光客誘客に向けた取組みについて | 観光交流推進局長 | 3. いじめ基本方針の内容及びその取組みについて | 教育長 |

平成26年6月4日 第3回定例議会にて

1. 岐阜県の人口減少対策について

- | | | | |
|------------------------------|----------|--------------------------|--------|
| (1) 日本創生会議人口減少問題検討分科会の発表について | 知事 | (1) 障がい児者に対する医療人材の育成について | 健康福祉部長 |
| (2) 雇用創出と若者のワークライフバランスについて | 商工労働部長 | (2) 岐阜高等特別支援学校について | |
| (3) 若手女性の減少対策と市町村との連携について | こども・女性局長 | ・就職先など市立学校に与える影響について | 教育長 |
| | | ・新設に向けて教員や指導人材の育成と確保について | 教育長 |

2. 障がい児者支援について

平成26年10月2日 第4回定例議会にて

1. 航空宇宙産業の人材育成について

- | | |
|---|-----|
| (1) かかみがはら航空宇宙科学博物館のリニューアルにともなう県の取り組みと考え方について | 知事 |
| (2) 航空宇宙産業の人材育成にむけた工業高校における取り組みと今後の展望について | 教育長 |

2. スポーツに関する施策について

- | | |
|--------------------------------|----------|
| 第70回全国レクリエーション大会の開催目的と準備状況について | 清流の国推進部長 |
|--------------------------------|----------|

3. 人口減少にともなう住宅政策について

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| (1) 空き家の対策について | |
| ・増加する空き家に対するの県としての対応方針について | |
| ・空き家の活用などの具体的な施策について | |
| (2) 県営住宅に対する方針と施策 | |
| ・県営住宅の運営に関する課題と今後の運営について | |
| ・住宅確保に配慮の必要な方々に対する対応と今後の取り組みについて | |
| ・県営住宅における高齢者福祉や子育て支援施設などの施設拡充について | 都市建築部長 |



まつおかまさ と

松岡正人事務所

[事務所]
〒504-0908
岐阜県各務原市那加織田町2-5-1
[TEL] 058-389-6665
[FAX] 058-389-6676
[E-mail] shiawase@yaranaakan.jp

